



図 2.4 クラックの経年変化状況

【クラック深度】

クラックの深度は、顕著なクラックを対象に昭和 54 年、平成 5 年、平成 9 年、平成 14 年に行ったコアボーリングで確認している。結果を表 2.5 に示す。堤体のクラックはいずれも浅く 20cm 以下である。プラグでは 20～70cm と堤体よりも深い。経年変化による深度の進展は認められない。

表 2.5 クラック深度調査結果

年度	ボーリングNo.	ゾーン	ブロック	深度 (cm)	備 考
S 5 4	B-1	I	15	7.0	クラックがコアからそれる
	B-4	I	14	9.5	
	B-7	I	13	10.5 以上	
	B-10	I	11	17.4	
	B-11	I	13	—	
	B-2	プラグ	15	69.5	
	B-3	〃	15	51.0	
	B-5	〃	13	63.2	
	B-6	〃	13	19.3	
	B-8	〃	11	27.7	
	B-9	〃	11	51.0	
H 5	NO.1	I	13	6.0	骨材（流紋岩）に微細なクラック
	NO.2	I	14	8.0	
H 9	①	I	13	14.9	
	②	I	15	15.0	
	③	Ⅲ	16	7.3	
	④	Ⅱ	19	6.0	
	⑤	プラグ	15	60.0	
H 1 4	H14_11_1	I	11	14.4	S 54 B10 隣接
	H14_13_1	I	13	17.5	S 54 B7 〃
	H14_15_1	I	15	4.2	S 54 B1 〃
	H14_19_1	Ⅱ	19	3.5	H9 ④ 〃
	H14_16_1	Ⅲ	16	1.3	H9 ③ 〃
	H14_13P_1	プラグ	13	39.0	S 54 B5 隣接
	H14_15P_1	プラグ	13	54.0	S 54 B2 〃
	NO.1	I	13	6.0	H5 ボーリング孔を目視観察
	NO.2	I	14	8.0	〃